No.125
公民館だより
平成17年11月
宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

全国公民館研究集会から

由良地区公民館長　飯澤登志朗

10月13～14日の二日間、神戸市に於いて第28回全国公民館研究集会が開催されました。

テーマは、

『新世紀、こころ豊かなまち、人づくり』

～「元気と安心」・「生きる力」をはぐくむ公民館の創造～

として10の分科会と全体会に北海道から沖縄まで公民館に関わる人たちが集い熱心に意見を交わしました。

記念講演では、〝太平洋ひとりぼっち〟の流行語を生んだヨットマンの堀江謙一氏が「未知への航海」と題して体験談を語られました。

生死を越えた体験をあたかも私たちが大阪や東京へ出かけるような調子で淡々と話されましたが、最初の航海が一九六二年（昭和37年）23才で単独太平洋横断を皮切りに世界の海をまるで自分の庭のように横断を重ねて来られました。

毎朝配られる新聞が来ない、海上では当たり前ですが堀江さんの話を聞くと不思議な程活字のない生活など考えられません。

物を包んでいた古新聞の切れ端でも活字を何回も何回も繰り返し読んでいたとのことです。

最近はソーラー発電機があり衛星放送も見ることが出来る。また電話で家族とも会話が楽しめると話された後、二～三年後にもう一度世界一周に挑戦すると締め括られました。

昭和13年生まれですから、その頃には70才ですが本当に海が好き、ヨットが好きなのだと語っておられました。

テレビやインターネットの発達で新聞の役目は終わったとIT関連の人は云いますが、私たちはやはり朝起きて新聞に目を通します。ニュースは前日テレビで放映されたものであっても新聞の活字で確認しています。

現在、由良地区では医療問題という大きな課題に突き当たっています。以前から注目されていた問題であり関係機関との折衝も進まず現実の課題となりました。

高齢社会が顕著となり、なお且つ無医地域が続くことは何とか避けたいものです。

最近よく聞くことですが、他人に頼らない、行政に頼らないといったことです。まず自分で出来ることがあります。環境問題でも健康問題でも一緒です。

先の全国公民館研修集会で私は第七分科会「環境教育」に出席し、新潟県や京都府の各公民館が取り組んでいる環境問題について実践発表を聞き、また各地の問題点について意見交換をしました。例えばナイロンやビニール、生活排水による河川や海の汚染がありますが買物袋の活用や再利用は自分で出来ることです。

ゴミの分別でも不十分で宮津市の焼却場では集められた燃えるゴミをもう一度開披して手作業で再分別をするとのことですが個人がもっと正しく分別すれば無駄は省けます。

地域の環境を一人ひとりが守り健康な生涯を皆んなで求めていきたいと思います。

行事報告

主事　磯田充亮

◎六月十九日(日)　四部対抗バレーボール大会

春の恒例行事、第二六回四部対抗バレーボール大会を実施いたしました。

今年は例年になく、各部とも大会前から練習を行いたいとの申し出があり、練習時の事故対策のため由良自治連合会との共催で開催しました。

各地区とも練習成果があり、技術の向上が見受けられ、ねばり強い連携プレーがあり、白熱した試合運びとなりました。

結果は、次のとおりでしたが、女子の部で例年三部が全勝優勝でしたが、二部が三部を敗る波乱があり、三部の優勝が危ぶまれました。結果、一、二、三部が共に二勝一敗となり三部がセット負け数が少ないことで辛くも優勝、十六年間の王座を守りました。

男子の部は二部が全勝優勝し、男女とも二部の躍進が見受けられました。

結果は次のとおりです。

	男子の部	女子の部
優勝	二部	三部
準優勝	四部	二部
三位	一部	一部
四位	三部	四部

◎八月二十一日(日)　盆踊り大会（地蔵盆）

子供地蔵盆が盛大に行われたあと、松原寺境内において約一五〇名の参加をえて盆踊り大会を開催いたしました。

今年は開催前からの小雨で、盆踊りには欠かせない提灯を飾ることができませんでした。かわりにサーチライトを使用。照らし出された櫓を囲み踊る法被を着た若いお母さん達が雨で濡れた砂利を踏みしめるたび光り輝き踊る人、見る人がいつもとちがう雰囲気で夏の夜の一時を楽しく過ごされたことと思います。

今回も雨のスタートで開催が危ぶまれていましたが、婦人会・由良踊り保存会等多くの皆様の賛同を受け開催できたこと感謝いたしております。ありがとうございました。

◎九月四日(日)　由良地区運動会

開催前夜、豪雨に見舞われ開催が困難と思われたが、当日朝までに雨もやみ曇りの中、二年に一度の地区運動会が開催されました。

今回は、由良地区も全国同様の少子高齢化が進み年齢層の変化にともない競技内容等を見直し、出場者は中学生以上とし男女の区別をなくしました。

又、今までは団体種目だけの得点でしたが、個人種目にも付けました。

特に70歳以上参加の「宝つり」競技は着順ではなく、袋の中に点数票を入れ、それを釣り上げた者の得点としました。

運動会は三部がマラソンで大量得点を取得、今回も総合優勝かと思われましたが、その後加点出来ず、二部は団体競技では団結力を発揮し高得点を重ね、26番目の競技「デカパンリレー」

で、三部を逆転し、総合優勝の結果は二部と三部の四部対抗リレーの成績次第となりました。

四部対抗リレーは、俊足を揃えた四部が圧勝しました。三部は二位を走る二部への追い込みもあと一歩及ばず三位となり、結果二部が38年振りに総合優勝を成し遂げました。

成績結果は次のとおりです。

総合成績　リレー成績

優　勝　二部　四部
準優勝　三部　二部
三　位　四部　三部
四　位　一部　一部

後になりますが、一部競技で不手際がありましたことをお詫びいたします。

今　学校では

由良小学校長　倉野英明

今年の夏も昨年のように猛暑酷暑の日が続きました。二学期が始まり秋らしい気候になるのも近いかなと思っていましたが、あにはからんやまだまだ日中は半袖でもおれるかなといった陽気です。これも、地球温暖化の影響かと思わずにはいられません。

さて、一〇月半ばとなり、この間には、二学期始まって早々に由良地区の運動会がありました。暑い中での運動会でしたが、それ以上に自分たちの部の得点を一点でも上げるため真剣にがんばる、競技にかける熱い思いが伝わってきました。二年に一度の地区のスポーツの祭典に由良の子として参加し、地域の良さを実感できたのではないかと思います。

また、今年は、主催者の自治会からの要請もあり、学校を授業日にし敬老会に参加しました。児童会役員からの花束贈呈、全校合唱（由良小学校歌・ふるさと）と低・中・高学年に分かれ、学習している音楽等の発表をしました。

校歌やふるさとを思い出しながら一緒に歌ったり、出し物も熱心に聴いていただきました。終わった後、「よかったよ。」とか、「懐かしく聞かせていただきました。」などのお褒めの言葉をいただき、子どもたちもとても喜んでいました。

始業前、校長室から外に目をやると今日も、わいわい言いながら朝の浜の子マラソンに励む子達、マラソン大会も近づき、以前に比べ、周回する速さも増してきたかなと思います。

今、学校においては、教育に関わる改革の動きの中で評価システムの確立について数々の提言がなされています。中央教育審議会答申「今後の地方行政の在り方について」や教育課程審議会「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方」そして、教育改革国民会議「教育を変える十七の提案」（地域の信頼に応える学校づくり）では、

・保護者は、学校の様々な情報を知りたいと思っている。開かれた学校を作り、説明責任を果たしていくことが必要である。目標、教育活動の状況、取組の成果など学校の情報を積極的に親や地域社会に公開し、学校は、親からの日常的な意見に素早く応え、その結果を伝え、評価結果は親や地域と共有し合い、学校の改善に生かす。

・学校が、親や地域住民の信頼に応え家庭や地域と連携協力するためには学校を開き、学校の経営責任を明らかにし、教員自ら教育計画や実施状況について自己評価を行い説明することが必要である。

・指導計画や指導方法についても親や地域の人々の声を参考に進めることが大切である等々。

また、そのことを受けて、法改正や宮津市小学校及び中学校

の管理運営に関する規則に「校長は、学校の教育目標、教育活動その他の学校運営の状況について点検及び評価を行い当該評価結果の公表に努めるものとする。」という項目が平成十五年の四月に付加されました。

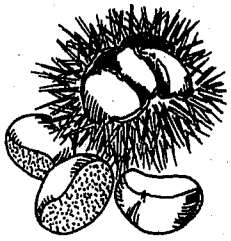
本校もそのことを実践化するべき取組を進めています。

学校の取組（学習、行事、教師の姿勢、活動状況等について十月と二月の二回、保護者や地域の各種団体の方々を対象に学校評価をお願いし、寄せられた結果や意見を真摯に受けとめ、話し合いを持ち、学校の取組や指導に生かすよう努めています。

また、自分たちの日々行っていることについて、できているか、そうでないか、どうすればできるようになるのか等、実践を振り返り、お互いをまた自分自身を評価することも年二回行っております。

そして、今年から（今年度は試行）、教職員一人ひとりの指導力や取組姿勢、教員としての資質等について、管理職が評価する教職員評価を行っています。本人が今年度学習指導や生徒指導でがんばることや学校組織の一員として果たすべきことなどを面談や児童対応や参観等で評価し、教職員一人ひとりの資質能力の向上や学校改革につなげていきたいと思っています。

「子どもをあずけているため中々面と向かって意見が言いにくい。」「どうも学校は敷居が高くて入りにくい。」等の声を聞くことがあります。そのため、学校もアンテナを高くし、多くの方々の意見や願いを取り入れるための方策を考え、保護者、地域の方々と共に由良の教育を推し進め、信頼される学校を作っていきたいと思っています。



「ふれあいタイムで」

六年　山田貴彦

今日は、授業参観があり、そのあとおじいさん、おばあさんたちとのふれあいタイムがありました。ぼくは、おじいちゃんが将ぎコーナーに行くと言っていたので、将ぎコーナーに行くことにしました。

将ぎコーナーは、子供ばかりだったけどたくさんいて、将ぎばんが足りないぐらいでした。ぼくはおじいちゃんと、四、五回やりました。ぼくは、ふだんも兄弟とかとやっているけど、おじいちゃんは「もうずいぶんやってないなあ。」と言っていました。でも、何回もやったけど全然勝てず、じゅう分強かったです。さすがに強いなあ。全然歯がたたないなあ。と思いました。

結局、一回も勝てず、最後は時間切れで終わってしまいました。でも、おじいちゃんとやる将ぎは、とても楽しかったです。

百人一首

六年　中西琴海

ふれあいタイムの時間に百人一首を教えてもらいました。

私は、百人一首をするのは初めてで、何をしたらいいのかわかりませんでした。

でも、おばあさんがやさしく教えてくれたので自分が思っていたよりも早く覚えられたのですぐに百人一首をすることができました。

一回目は、お手つきばかりしてしまい、近くにある札もとることが出来ませんでした。

でも、二回目をやってみると、札をたくさんとることが出来ました。

百人一首がこんなに楽しい遊びだとは、しらなかったので、「もっと早く百人一首を教えてもらってたらよかったのに。」と思いました。

「楽しかったふれあいタイム」

六年　大森まゆ

今日、ふれあいタイムが三、四時間目にありました。

私は、六年目にして初めて竹細工コーナーに行きました。

始めに竹とんぼの使い方を教えてもらい、さっそくちょう戦してみると、固くてなかなかけずれなかったので、磯本さんに手伝ってもらいました。

私のけずり方が下手で、ギザギザにしてしまった所を磯本さんが、「ここはまっすぐにけずるんやで。」と言って、直してくれました。

出来上がって、飛ばしてみると、直線に三、四メートル飛びました。うれしかったです。

こんなに楽しいのに、なぜ今まで竹細工コーナーにいかなかったんだろう、お世話になったおじいさんおばあさん今まで六年間ありがとうございました。

将ぎ

六年　酒田幸輝

今日、ふれあいタイムで囲ごしょうぎコーナーに行きました。

ぼくは、ひろき君と将ぎをしました。最初のへんは、負けそうだったけど、後から、角行と飛車とかをとって、逆転勝ちしました。次に、はさみ将ぎをしました。ぼくの考えたこうべきとぜっぺきで、勝ちました。次に、ぼくとひろき君で考えたオリジナルしょうぎをいろいろやりました。これも、ぼくが全部勝ちました。そして最後に、五目並べをしました。囲ごとかは、とく意じゃないので、ひろき君にあっさり負けてしまいました。

ふれあいタイムのこと

六年　枡岡宏樹

今日、三、四時間目に、ふれあいタイムがありました。

ぼくは、今回、囲ご・将ぎにいってみました。始めにぼくは、幸輝君としょうぎの対けつしました。最初の方は、うまくいっていたけど、どんどん追いつめられ、みごとに、負けてしまいました。おじいちゃんたちも、教えてくれ、少し将ぎがうまくなった気がしました。

そして次に、囲ごをやりました。少し忘れていたこともあったけど、楽しくやれました。その後も、五目ならべをしました。チャイムがなり終わりました。今日は、時間いっぱい遊べてよかったです。

今日は、将ぎの強さがちょっと上がったと思うし、また機会があったら、したいです。

ふれあいタイム

六年　大森彩

ふれあいタイムで、私は竹細工のコーナーに行きました。

本当は、水鉄砲が作りたかったんだけど、竹とんぼを作ることになっていました。

おじいちゃん達は、シュッと簡単そうに竹を削っていたけど、私は、「シュー」っとうすーく竹の緑の所が削れただけでした。

「竹ってなかなか削れんなぁ。おじいちゃん達はなんでそんなに力があるんやろ。」と思いました。

一つ目は、おじいちゃんにほ

とんどやってもらったので、二つ目は自分でがんばって作りました。

家に帰って飛ばしてみたら、あまりうまく飛びませんでした。

時間があったら、細く、きれいに削り直します。

運動会に想う

宮本自治会長　枝川隆亮

「あ！ひょっとしたら」という感じをもったのは、昼前の大縄とびが終わった時点で二位の点数が掲示されたときである。

万年ビリで劣等生の子供が、自らの能力に初めて気づき、実力を充分に発揮し頂点に立つことが出来、やっとスタートラインに立てたような気持ちを持っている。

地区民が気づいたのは、前回のリレー優勝であったように思う。

たかが優勝だが、宮本にとっては大変大きな意味がある。

前回の優勝は、昭和四十二年だから実に三八年ぶりの快挙ということになる。

前回は、人口の差でハンディをつけたということなので、今回は、正真正銘の優勝になる。

勝利のための方程式はあるか。そんなものは無い。

我々個々の力は、微力だが一致団結すれば、その力は何倍にも威力を発揮するのではないだろうか。

日常生活にもそのことは言えるが、日々コツコツと努力する、そのことが大きな成果を得る、今回の優勝でそれを確信した。

いずれにせよ、目的を達成するためには健康でなければならないが。

準備に入ったのは、昨年十月末、了解を得て如意寺の竹やぶに入った。

拍子木の竹を切るためである。拍手では手が痛いし大きな音にならないので威力がない。

結果は、大きな音を出すことに快感を覚えたのか大成功であった。

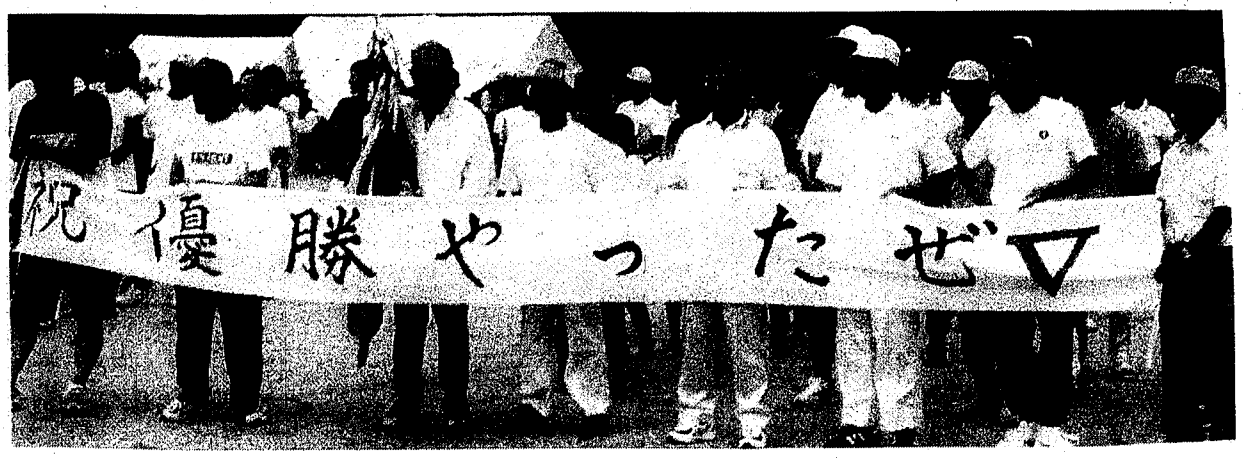
横断幕も団結するのに良かったと思う。

「祝　優勝やったでv」も事前に作成したが、これが使えるとは全く思っていなかった。

準備には、布購入、縫製、ペンキなど大変であったが、会員の皆が協力をおしまず、結果がすべての苦労を忘れさせてくれた。

祝勝会での酒の味は格別で夜が更けるのを忘れて、大いに痛飲した。

わが人生の中で大きな出来事の一つになった。



岸田勇様と表彰

松寿会会長　熊田良雄

第二十六回京都府老人クラブ大会が、九月十七日京都府総合見本市会館稲森ホールで開催。京都府下一六五〇クラブ、九一〇〇人会員を代表して京都南北から約五〇〇人の会員が出席し、盛大に開催されました。この席上で永年にわたり老人クラブの育成にご尽力された方々の表彰があり、岸田勇様は京都府老人クラブ連合会会長から表彰状が授与されました。次いで十月十八日の宮津市老人クラブ大会においても、老人クラブ育成功労者として表彰されました。重ね重ねの表彰誠にお目出度く心からのお祝いを申し上げます。

岸田勇様は由良老人会の役員として永年にわたり会員の育成にご尽力され、生きがい活動を基本に健康、友愛、奉仕の精神で大いに活躍されました。夏期の駐車場の運営、各種団体との共同奉仕、養護施設の訪問等、沢山の行事を計画し実行してきたことは、皆様もご承知のことと存じます。

由良地区の圃場整備については先見性を発揮し、幾多の困難をのりこえて現状の素晴らしい姿にいたしました。又、由良みかんがすっぱかったのを取上げ、各地へ出向きその技術を習得し、現在では由良の名産品として、立派に売り出すことに成功いたしました。

このように由良地区のために、多くのご尽力をなされた岸田勇様に対して、私達は感謝の念で一杯です。どうかいつまでもご健康でご活躍されますことをお祈り申し上げます。

稲かり

六年　大森雄司

今日、稲かりをやらせていただきました。自分で、思っていたより難しかったので苦労しました。でも、こつをつかめるようになると、いがいに簡単に切れました。根本より、少し上の方をかるとやりやすかったです。

少したつと、だいぶ奥の方までかれました。かった稲が山のように積み上げられていました。稲かり機も使っていました。手でやるよりも速く、正確に、きれいにかれますが、ぼくは、手でかる方がいいなぁと思いました。なぜかというと、人工的なやりかたでせず、自分の手でかりたいからです。二～四時間、約三時間稲かりをしましたが、またこういう機会があればやりたいです。

先生：うまく刈れるコツがよくわかります。手作業は、とても大変ですが、自分の手で刈ると、力の強さや、イネの固さなどいろいろなことが伝わってきますね。

稲かり

六年　澤田和美

昨日、稲かりがありました。昨年もやったことがあったので、楽勝と思っていました。でも始めてから数分で、うでが痛くなって休けい。「久しぶりにうでをつかったので手なまったのかな」と思いながら稲かりを再開しました。私が使っていたカマは、残りもので、〝は〟がトゲトゲしていないものなので、切りにくかったです。そのうちなれてきて簡単に切れるようになりました。稲かりは最初いやだなと思ったけど、やってみると案外楽しかったです。これからも色々な行事にチャレンジしていきたいです。

先生：みんなで、かったイネをリレーのようにしてわたして、楽しそうでした。

敬老会に参加して

中西俊夫

会には、毎回参加させてもらっており、今回も参加できたことをありがたく思っています。

その都度思うことですが、昨年も隣り近辺に座っていた方々を、今年も近くに見られることができたことで何かホッとしたものを感じるのも年のせいなのかなと思ったりしているのです。欲をいうなら次の年も同じ顔に出合いたいものと思っているのですが……

また、今年は会の催しものの趣向が変わっており、特に印象に強く残ったことといいますと、やはり子どもたちの熱演であろうと思います。

毎年行われております様々な芸能。古典的な雰囲気を思わせる日本舞踊などを観せてもらっていてその本意はわからないながらもいいものだなーと思っておりましたが、今年は、子どもたちが醸しだすはちきれんばかりの協和のリズム、つぎつぎに演じられる歌やおどり、その強烈なエネルギーはみているものをうきうきとさせ、その気迫が体にしみこむようなさわやかさは老いた気持に生気をもらったように思っております。

殊に老人世帯の日々の生活の中では、子どもたちの子どもらしい生気を受けることが少ないだけに演技に熱中する子どもたちをみていて特に強く感じたのかもしれません。

今日、敬老の日には、見たり、聞いたりと楽しませていただきました。開催の準備から開会までと大変お世話になりました自治会の方々、婦人会の皆さんにお礼を申しあげます。ありがとうございました。

郵政民営化に当たって戦中派の戯言

山口幸一

絶滅危惧種と謂われる戦中派である。八十四歳、年齢相應に耳は遠いし動作は緩慢、けれども意気は軒高である。農作業もやるし、月刊誌五冊は読破する。最近は千葉に居る長女の要請に應えて〝風雪八十年〟なる自伝めく私の歌集をまとめている。賞られるはなしではないが、亡くなられた作家白石一郎氏の科白をまねて〝タバコは戦友なり〟とうそぶいて一日二十本近く吸う。酒も人後に落ちない程度にはたしなむ。まずは健康にして屈託なく自在に生きている戦中派なのである。屈託なくとは云ったものの決してたのしい事ばかりではない。

〝俺もあとから行くからな〟など、月並みで気障りな言葉で死出の旅に送り出し乍ら、今尚気楽な余生を送っている自分自身に激しい自己嫌悪を感じる時もある。俺はこれでいいのかと自身を責める時もある。生き延びた戦中派の余生は単純ではないのだ。性懲りもなくつづく政策エラーにも怒りをあらわにする。

今郵政公社を民営化しなければならない理由は何一つとしてない。独立採算制を建前としている公社が一円だって国に支援してもらっているわけではない。二十六万という郵政公務員云々と首相はいう。何故か此の国の国民は公務員をへらすと云えば拍手して喜ぶ不思議な習性をもっている。公務員という安定した労働者が、リストラ自在のパートとか臨時雇なる不安定な労働者と変身してゆく事がいい事か、

現代日本を覆っている諸々の不安の原因は企業にとっては都合の良い、イビツなこの労働市場ではないか。安定した職場の確保こそ急務なのに。

差し当たって此の民営化法案なるものを見ても、民営化によるメリットはさっぱり見えて来ない。全国二万七千余という強力なネットワークをようして公社が誇ったユニバーサルサービスは消えるだろうか。郵便料金の値上げ、郵便局の統廃合、弱者に配慮した金融サービスもなくなるだろう。こうみて来るとわれわれ社会的弱者にはデメリットのみ浮かび上がってくる。

駅は無人駅、農協もなければ銀行もない。医者も居なけりゃ郵便局もない。ヘタすれば市役所の出先すりゃ無くなりかねない。ナイナイずくしの由良になるのも、あながち戦中派老人の杞憂にすぎないと一笑に付すわけにもゆくまい。

他人の作だが〝完敗はあなた選んだ有権者〟という辛辣な川柳がある。主権在民とあればそれも止むを得ないのか。

ここに注目すべき資料がある。国立長寿医療センターが二十才から七十才までの全国二千二百人を対象とした調査結果がある。それによると歳をとる事に不安を感じている人八三%。

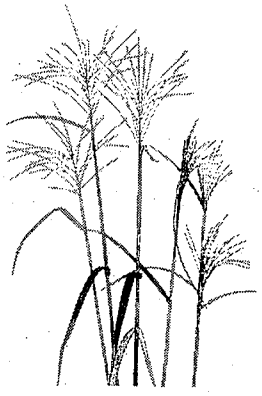
其の一方で外資系証券会社の調査結果によると世界の億万長者、純資産百万ドル以上の富裕層に百三十四万人の日本人が名を連ねているという。つまり日本の総人口の一%が世界水準の富裕層という事になる。

片や自分の老後に不安を感じる人八三%、片や世界の富裕層に名を連ねる人一%、驚嘆すべき貧富の格差。これが改革なるもの、実態か、金融改革、不良債権処理と称して国の預貯金は金利ゼロのままに本来国民の手に渡るべき利子取得はいったいどこに消えてしまったのか。銀行と其の先の企業ではないか。

彼等はそれを原資として益々ふくらみ、国民はやせ細ってゆく、これが我が国の改革なるもの、実態である。国民を無謀な戦争に駆りたて何百万人という若者のみならず近隣諸国の何千万という人々の命を奪って戦争発起に抵抗し、反対した良心的な人々をアカと呼び非国民とののしり、愛国者づらしてお先棒をかついだ愚かはもう止めにしよう。

連綿としてつづく此の国の政策エラー、お上様のなさる事なら—と無批判についてゆくのはいい加減終止符をうとうではないか。

郵政公社民営化に当たって、反体制、少数派を自認する戦中派の戯言である。



人権標語

平成16年度人権標語入選作品

ありがとう　微笑む友の　あたたかさ

栗田中学校　山田久美子

山椒太夫の結末

三森　明　文・絵

「歴史其儘と歴史離れ」という小論があります。

森鴎外が小説「山椒太夫」と同時期に発表したもので、文中同作品にも触れており歴史小説に対する気持を書いたものとして知られています。

山椒太夫はご存知のように古くから説経節として語り継がれ映画やアニメにもなった有名な伝説です。

平安時代の頃

陸奥から紫筑へ流された父を訪ねる旅の途中、人買いにだまされ母は佐渡へ、幼い安寿と厨子王は由良の長者山椒太夫に売られてきました。

安寿は汐汲み、厨子王は柴刈りと過酷な日々を送ります。

ある日安寿は厨子王に守り本尊を持たせて逃がすが、自らは責め殺されてしまいます。

無事都へ逃れた厨子王はやがて出世をして丹後の国守となります。姉の仇山椒太夫を死罪に処して佐渡に渡り母と再会を果たします。

しかし鴎外の「山椒太夫」では安寿は沼に入水し、山椒太夫も人買いを禁じられ使用人を解放して賃金を払い、一族は富み栄えたという。

歴史離れそのままに伝説に縛られず、残酷味も薄らぎ鴎外の意図する夢のような物語であると思われ、私にはこちらの方が親しみやすい。

短歌

コスモスは「宇宙」「世界」の意味持てり北半球に香る秋桜
ゆるやかに時の流るる心地せりコスモス揺れて秋の旋律
コスモスの花びら萎えてうち沈む時雨れて午後の想い届かず

藤本史代

名も知らぬ赤き花なり今日もまたしんと咲きいる花のかがやき
友のくれし水菜の苗は勢いたち青葉広げて太陽にむかいおり
遠き日に満州に行きしわが親友の夢に浮かび来おさなきままに

山口美子

糸とんぼ漂うごとく来てとまる雨の雫の残れる草に
入道雲いつしか消えて空高く鰯雲浮く夏終る午後
ほどほどに実を落としつつ柿の木は今年生り年か数多生りおり

山田よしの

無言館に一歩入ればひんやりと背筋に走る戦死者の魂
（無言館は、先の大戦で戦死した若い画家達の遺作、約三百点を収集、展示―長野県上田市―）
大理石に牡丹の花びら拡ごりて夕光の中に紅の匂いす
八階の窓ゆ眺むる橋立の常磐の松は横一文字に

大森萬喜子

ちちははの追いつ追われつ流灯は在りし昔を展げるように
亡き人を恋うるがごとく彼岸花野の道みちに赤く群なす
鈍色の空よりひびく海鳴りに由良の晩秋いよいよ深し

大森美智子

生も死も宿世の約と思いつつ諦め刻は過ぎゆく
酷暑去り秋桜は揺れさわやかに肌に染みくる季の移ろい
夕暮れて通る人なき細道のしじまに幽か虫の声する

坂本妙子

思い出に孫に聞かせる秋の日々何故かロマンを誘う夕ぐれ
百才の姑に日傘をさしかけて敬老会場へ向かう今日よく晴れて
救急車のサイレンを聞かぬ日はなしとう無医村になりしわが里淋し

とよ子

変節の思想に慣らされし議事堂のニュース疎まし木犀散りて
昭和史の〝転向〟の苦悩にほど遠くいま頻りなる変節の思想
価値観はつねに権力に依存すと学びし真理いま新聞にみる
―郵政民営化法案成立―

山口幸一

五十年前この由良浜に立ちて居し三島由紀夫を誰も知らざり
十一月の暮れゆく海の薄ひかり視線厳しくせめて取材す
『金閣寺』の名作にのこる由良の景写すごとくに記されて足る
（昭和三十年十一月十一日、三十才の若き三島は『金閣寺』の放火事件を小説化するにあたり、一つの伏線を敷くため、由良に来て二泊三日の滞在、その取材は克明な記録で文中に当時の由良が浮かび上がる。※参考・公民館だより94号～96号）

中西夏江

子供地蔵盆

岡田　武

彼岸で墓参りに行った時、何となしに変に感じた事がありました。この時期いつも咲いている彼岸花がまだ咲いていませんでした。

毎年墓への道すがら、田の土手に咲いている彼岸花を見るともなしに家族ととりとめのない話しをしているのが当たり前になっていたので、今年はわずかに数カ所で今から咲こうと小さな赤い花をもっているのが強く印象に残りました。昨年の台風で土手が崩れたせいかもしれません。

早いもので今年で「子供地蔵盆」も六年目を迎えることができ、世話人メンバーの動きも子供たち、地区の人たちの様子に合わせた動きになってきたようになりました。

始めた頃は思いばかり強く、ドタバタ・マゴマゴで失敗の繰り返しでしたが今は次に何をすればいいのか自然と動けるようになりました。

うれしかったのは中学生、高校生の子供たちが参加してくれるようになった事です。手伝ってくれる子、グループで見に来てくれた子様々でしたが、以前自分達がやっていた事を楽しげに懐かしげにしているのを見ると、やっていて良かった続けて良かったと実感しました。

年々少なくなっていく子供たちに、学年を越えて同じ空間を共有し、少しでも楽しい思い出として、心の隅にでも残ってくれたらと願い、どんな形でも続けていきたいと思っています。

ただ、続ける事は止める事よりも難しく、地域の多くの方に、「どんな事をやっているのかな」とのぞきにきて、色んな感想を聞かせて頂き、今後の参考にしていきたいと思います。是非、一度は見に来てください。

世話人メンバーの子供たちも半数以上が中学生以上となり、やがてはメンバーも交代していく時期がくると思いますが、孫を抱きながら新メンバーの企画した「子供地蔵盆」に参加したいと思っております。お地蔵さんの真っ赤な涎掛けも一年たてば傷んできます。毎年八月の終わりには新調した涎掛けが見られるよう頑張りたいと思っているこの頃です。

毎年のお彼岸になぞらえて書き出しましたが当たり前のことは当たり前に、由良の子供たちの行事として普通にあれば良いと考えています。世話人メンバーの年齢差二十年！地区を越え世代を越え楽しく続けたいと思っております。

戦(たたかい)い破れて

濱野路　大森　孝

（一）

先ず昭和20年の7月30日に、由良の2214番地（旧東崎地区内の畑地）付近で起こった。敵艦載機による機銃掃射で、由良の村民4人が空襲を受けた。

狙われたのは、少年三森一幸(みもりかずゆき)（10才）君、少女升井幸子(ますいさちこ)（10才）さん、升井(ますい)わささん、（幸子さんの祖母）及び塩森(しおもり)かねさんで、その中で三森君が重傷で、機銃弾が脚部を貫通し、脚のつけ根に弾丸があった。幸子さんの祖母わささんは、とび散った弾片で背中を負傷し、焼けて激痛が走る。源兵衛のかねさんは

掌をやられて、狼狽した。壕に入っておればよかったのに。

幸子さんの証言によると、この日は早朝より空襲警報が鳴って避難をよびかけていたらしいものの、偶防空壕の外に出て、友軍機か敵機かを見分けるつもりで、4人もが集まっていたらしい。『パッ』と閃光がきらめいて銃撃がパンパンとして、次にグァーンと大きな音がして、敵艦載機が至近距離に迫ってきた。敵兵の顔も見えたのではないか。

三森君は近くの病院へ搬入され、姉の妙子さんは当時福知山陸軍病院の看護婦として服務中で、日が経ってから、弟一幸君を病床に見舞うことになった。

4人を襲った敵機は、宮津湾で、「初霜」駆逐艦を撃った敵の攻撃隊のものか、舞鶴海軍工廠造船部を攻撃したものか、又、伊根湾で「長鯨」潜水母艦を攻撃したものか、いずれにしても当地由良へは海伝いに海岸線を飛んで行き帰りの途中での無差別攻撃に外ならなかった。

（因みに私は当時山口県防府市にあった海軍兵学校防府分校で課業にあけくれていたので、復員後、8月26日以後、幸子さんや坂本妙子さんからその体験をきいたものである。）

（二）

次に宮津湾獅子崎の砂浜に擱座していた連合艦隊第十七駆逐艦所属の「初霜」（排水量一三六八屯）。乗組員二〇八名。艦長少佐酒匂雅三氏）の事について触れねばならない。

これは昭和20年8月26日、防府の三田尻駅を出発して、因幡から但馬の美しい海岸を眺め乍ら、復員してきた16才の私が、宮津駅を出て栗田の旧トンネルへ入る前にはじめて見た戦闘の残像であり、『あっ、宮津湾でも海空戦があったのか？』強い衝撃と瀬戸内海西部で味わっていた敵機への怒りと恨みが蘇ってきた一瞬だったから。強い印象を茶色の艦影に重ねて、憤りと共に『初霜』の残骸と向きあうことができた。

先述の由良空襲で非戦闘員を狙い撃ちした7月30日の非道。これと軌を一にする海空戦が『初霜』と敵艦載機グラマン・爆撃機コルセアとの間に行われていたからであった。

駆逐艦『初霜』誌によれば、『初霜』艦は昭和20年4月の徳山出撃の戦艦大和を基幹とする沖縄特攻に参加して、翌4月7日『矢矧』『浜風』の乗員を救助して、翌8日佐世保帰投。（佐世保鎮守府所属の艦である。その後舞鶴へ回航して、6月16日、『雪風』と共に峯山航空隊の特攻機の夜間訓練の標的ともなり、宮津湾と朝鮮との農産物その他の輸送路警備等のために湾内にいた。そこへ7月30日敵姿。早朝6時半。戦爆併せて計百機銃撃戦始まり、原因不明の船体切断があって船体前部は〝ゆきあし〟で獅子崎の砂浜に擱座した。酒匂艦長としては、水深の浅い処は特に危険なので、湾外での交戦の信号を命じたのですが、第十七駆逐隊の司令の乗る『雪風』に通じたか否か。不明のまま。電探の効果もない湾内で危険の中を、磁気機雷に触雷。さらに陸地より約80米の処で、2回目の大きい爆発おこる。機関部員を主として戦死15名。ほか約百名にのぼる重軽傷者出した。なお急降下爆撃は回避した。

敵グラマンによる機銃掃射を受けている。（参考…酒匂艦長『初霜』の思い出……駆逐艦初霜誌P49～P54《※……参考文献より引用》

その後、私は宮津の町へ所用で国鉄宮津線で行く時も、又上りで帰る時も、擱座した艦影を仰いでは、私の海兵生活と重ねて、傷ましい敗戦の具象として脳裏に刻んだ。眸をこらして、滅びた海軍を思い出すよすがとして見た。その都度想いは脹らむ。

迎えて、10月に入って、飯野

重工舞鶴造船所によって、引き揚げられ、解体された。これをもって、視界から軍艦は素より海軍に関する事物は公には総て失われてしまい、私が軍艦と再び見えるのは壮年に入って、横須賀地方総幹部での、8月第一日曜に行われた海上自衛隊〃ちびっこ〃との集い迄、16才を以て絶えてしまう。

（三）

『愈　来たな!!』課業開始を目前にして、うだる暑さの続く中で半ば寝不足で、脳の活動も休んでいる昭和20年8月7日、防府の海軍兵学校に戦爆連合で、百機以上が大挙襲いかかってきた。空襲警報が、日頃の定期便とよんでいた〃〇八、〇〇〃すぎの警戒警報にとって変わった瞬間である。次から次へとグラマンの機銃掃射と、B24の焼夷弾が襲いかかる。いつも耳にしていた豊後水道を北上する敵機云々……が今まさに吾々を標的として、学校を攻撃している。

《なおあとで知ったのだが、同じ分隊の広島市出身の戸上一生徒の故郷広島市は昨日8月6日、B29のエノラ・ゲイによって8時すぎ原爆を落とされ、戸上一家はこの無差別爆撃で一家全員死亡していた。因みに彼は復員を神戸の方にして、後年神戸大学教授として生きるのだが、16才の戸上少年の悲運は、ここに始まった。別に、8月9日のソ連軍の満州国侵攻は奉天（現瀋陽）から海兵に入っていた横沢照人生徒や、大連から入校していた竹谷賢治生徒の復員先も奪っていった。

大戦末期、わが国は次々と非道な運命に弄ばれ、所謂〃なだれ〃となって終局へ転げ落ちて行く。

とまれ、生徒館を隊列を組んで、退避して行くと、屋根を貫いて、プスプスと銃弾が突き刺さっていて、天井より〃コール・タール〃がぽとぽとおちてくる。それが略帽に落ち、三種軍装の上衣の背中に落ちる。戦闘機が低空で撃ってくるらしい。建物の出口に立っているのは三〇五分隊所属の別所生徒（津市出身）だ。週番として指示を与えている。彼は銃弾がうちこまれてくる中、持ち場を離れることはできない。『大丈夫か!』銃弾か弾片にやられんようにと心に祈り乍ら、『別所生徒』と離れた。

外に出ると生徒館が三棟炎上している。三部は焼夷弾攻撃を辛うじて免れたようだが、延焼を防がねばならぬ。バケツもない。モップもない。全くなす術もなく、唯やけおちるのを見守るのみ。長い時間の中にいるよう。

大気がもえ上がって、とても熱い。建物に近づくこともできぬ。眉毛や髪の毛迄がチリチリと焦げる。一〇〇米はおろか、二〇〇米も建物への距離があっても近寄れない。由良に例えれば、若しも由良駅が燃えさかっているとして、JAの倉庫迄しか近寄ることができず、由良郵便局迄接近するには衣服諸共一旦水にとびこんで、濡れ鼠のいでたちでなければならぬ。こんなに大気が熱くもえ上がることは、私にとって生まれて初めての体験だった。〃断末魔〃この言葉が何度も何度も頭をよぎった。

戦争とは非道なものだ。すさまじいもので、みじめなものだ。命を奪い、幸せを奪い、チャンスを奪ってしまう。忘れてはならぬ。

（四）

苛烈な戦争で不運を蒙った人々が多いが、私の知り合いでは、一つは玉垣肇君の場合がある。一生懸命、生きていた肇君が少年の17才で父治氏をシベリアで喪い（昭和21年10月）、懸命に人生を生きぬかんとして、降りかかる苦難重囲の中で、可能性を十分に発揮できず、あたら俊秀は挫折してしまった。彼のために、家族のために惜しみてもあまりあるし、許し難いソ連のシ

ベリアでの仕打ちである。
外に上石浦の岸田政次郎家の場合も長男松さんが日中戦争で戦死してより、家が落魄して行った。私の知り合いも、可能性を摘まれて傷手を蒙った。（良子さん→次妹）
三番目は小松房二郎氏の事である。軍属として、マレーシアへ徴用されて、南支那海方面で乗船が敵潜水艦によって攻撃され、沈没。戦死。成功者としてよく働き、栄光と功績の輝かしかった大起業家の悲運の死、悽愴を極めた太平洋戦争の実態である。痛恨の極みで無念である。
本人はもとより、戦争はそれぞれの家庭を零落させた。恨んでも恨み切れない。決して忘れられない事である。（終）

〔参考文献〕

※〝駆逐艦『初霜』〟平成2年9月
発行
編　者　初霜戦友会編集委員会
発行者　藤井治美
印刷所　大信印刷株式会社
大阪市大淀区大淀中四丁目13番11号

経ケ岬から潮岬まで（No.6）

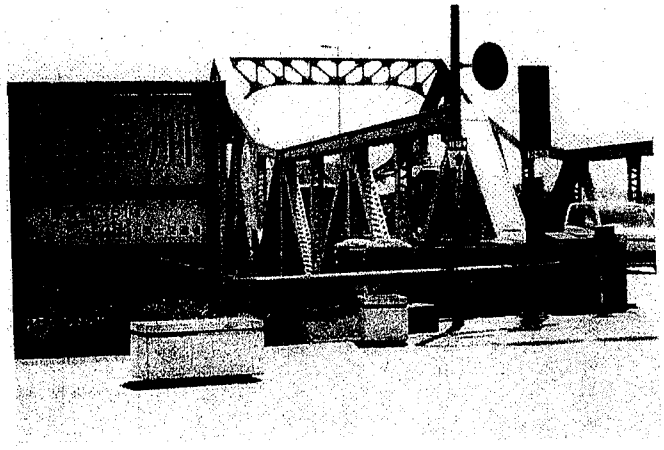
四方俊一

この地は「城陽市」京都と奈良とのほぼ中間に位置し、かつては米・梨・イチジク・甘藷・桃・柿・梅・茶等各種の農産物で知られる近郊農業地帯であったが近年は京都・奈良・大阪への通勤、通学圏にあって、人口増加率が高く、住宅都市へと様相を一変している。古代から集落が発達し、「日本書紀」に、推古天皇十五年（六〇七）「山背国に大溝を栗隈に掘る」と出てくるように灌漑工事がなされた。やがて大和を中心とした仏教伝来と共に寺院が建立され栄えた。城陽においても久世廃寺、平川廃寺の存在が確認されている。中世に入ると戦乱の中、南山郷士と云われる土豪、名主達が各戦乱に馳せ参じると共に領地の防備に奔走し、砦や城を築いた。中央の戦乱が終結しても山城一帯は山城一揆を誘発する方向に向かうのである。江戸期に入ると、所領関係が複雑に入り組み、殆どの村が幕府領、皇室領、公家領、寺社領、藩領等に依って分轄知行されていた。宿場町「長池」は京都～奈良間の街道に位置する宿場町として、幕府の直営地となり、人足二〇人、馬三頭で、富野村が人馬を徴用すると定助郷村と定められていた。明治維新後は藩領以外は京都府となり、その後、幾度かの行政区画改変により綴喜郡、久世郡の管轄になり戦前迄続いた。昭和二六年（一九五一）合併して城陽町となり、昭和四七年（一九七二）市制施行した。山城大橋で木津川に降りて川原で昼食をとり一服する。広い川原、その先を水は緩やかに北上する。山城大橋は国道三〇七号線、通過する自動車も絶える事無く走る。十二時二十分。京都府の南端、木津町迄二時間の行程先を急ごう!!国道二四号線（奈良街道）は木津川の堤防上であって右手に木津川、左手に農地と住宅があり旧奈良街道が在る。車の通行を避けて路肩を歩く、この地は「井手町」、京都市の南二八キロに在り鉄道で京都へは四〇分、奈良へは二〇分の距離にある。東側に四〇〇米前後の山が連なり集落は河岸段丘及び扇状地の扇端にある。古代、奈良期の「井手」は橘氏と縁深く所領地であり、橘氏に関する史跡や伝承が多い地域である。又、古くは高麗人の高史一族が居住していたと云われている。中世に入ると文明十七年（一四八五）～明応二年（一四九三）に至八年間、通行権の管理、検断権（刑事犯の追捕、裁判）等を行使して南山城を自治支配していた土

豪、地侍三六人衆が構成されていた。そして玉水橋の付近は井手の中心街で奈良街道と、西進する木津川の船運によって水陸の結節点として栄えた。明治二二年に綴喜郡井手村となり以後幾度かの行政区画改変により今日に至っている。道端には、観光農園の販売所があり「南山城フルーツライン」を開設し特産の柿、蜜柑、土産物を販売していた様で今は果物が無く加工品のみである。

更に足は木津川に沿って奈良街道を南進する。「山城町」に入ったのは午後一時過ぎ、右手に木津川、左手に田園を見つつ淡々と続く奈良街道、木津川の向かいは精華町更に向かいの低い山並みは開発の進む「学研都市」、そう!!随分歩いた、後、僅かで京都府の南端に達する。

三重県伊賀上野から流れる川、木津川が大きく湾曲して北流する平地が山城町である。奈良街道は木津川から大きく離れて山城町役場を右手に見て町の中心街である、左手は上狛駅、交通量も一段と多くなる、三重県の亀山市に繋がる国道一六三号線と国道二四号線が交差するところで大阪、奈良、京都への交通要路である。左手に入り暫く歩くと京都府の山城郷土資料館がある所である。「日本霊異記」にも登場する「高麗寺」の遺跡がある、高麗系の到来人が土着して開発を進めた、その遺跡で飛鳥期の創建と云われている。「狛」の地名も到来に由来する。木津川は古代には「泉の川」と呼ばれ、藤原京や平城京に調・庸を運ぶ東国や北国の民の最後の難所であった。天平十二年（七四〇）の頃、僧行基はここに泉橋を架け、橋の守護と旅行者の安全の為泉橋寺を作った、奈良街道の北詰め西側堤防下に現在もある。その泉大橋を渡ると待望の「木津町」である。京都府の南端に位置し奈良県に接する土地で有るだけに奈良の都に繋がる歴史の多い所でもある。木津地内には渡来人の居住地とし遺跡や古墳の多い所である。「泉木屋所」木津川流域左岸、現在の木津町あたり、早くから木津川の港として開発され宮都造営のための材木が「泉津」で陸揚げされ、貯木場の木屋が設けられていた。木屋は大安寺、薬師寺、西大寺、東大寺などの大和の大寺や皇后宮職の様な官衙によって経営されていた。天平十二年



（七四〇）聖務天皇は橘諸兄に命じて新しい宮都（恭仁京）を建設した、「恭仁京」は相楽郡加茂町瓶原付近に中心を置き、同町を左京とし鹿背山を挟んで当町を右京としたものと思われる。「中世」の木津荘はおの前身を「泉木屋」（泉木津）に溯り、地内には木津町が形成され木津川船運の要港と奈良街道の要衝として賑わっていた。また材木座、塩座などを初め問丸（交通上の要地となった港湾で、倉庫業、舟人宿、商業を営んだもの）の存在も確認され、戦国末期からは京都迄進行した馬借（公的な官吏の旅行や物資の輸送に備えて街道の宿、駅に置いた乗り継ぎ様の伝馬の管理人）一揆も起こり、商業活動も可なり盛んであったと考えられる。「木津川船運」当地域は、中世に引き続いて木津川の港として栄えた。当時、淀川筋の過書船（貨物・乗客船）のやや小型の二〇石船が笠置まで登り、河川の改修で、

高瀬船が大河原（南山城村）から伊賀上野の長田村まで通うようになった。やがて文久元年（一八六一）には大阪直行便を許可されるまでになり、幕末期には木津浜二五隻、吐師浜（木津川左岸）六隻、鹿背山（木津浄水場の辺り）二隻の船数となった。船頭は現在の木津川端辺りに多く住み、積荷は米、菜種、薪炭、雑穀、茶、柿、竹等を大阪へ運び、塩、油粕を求めて戻った。又、「水との戦い」でもあり幾度かの洪水・氾濫との戦いでもあった。明治に入ると京都～奈良間に鉄道が敷設（明治二九年）され、船運は衰退の一路を辿る事となる。現在は、平城ニュータウンが造成され奈良街道周辺の開発が進み様相を一変し、奈良、大阪、京都のベッドタウン化した。時刻は午後二時を過ぎた頃、京都府と奈良県の境界に達した。

「経ヶ岬」を出発してから四日間で歩いた事になる。距離にして二五〇キロ、随分と歩いた、当初は体に軽い疲労を感じたが今は返って体調良く軽快になった。ここ迄来たのだ、一層のこと、行ける所迄歩いてみよう、五月晴れが続き体調も良し、これが好機である。一路「奈良」に向かって足を運ぶことにする。

「奈良」海に面しない、南北一〇〇キロ、東西五二キロの県で近畿地方のやや南部に位置している。「青丹(仏事や衣服や調度に使われる染色の一つ、当時の僧侶の事）よし寧楽（なら）の京師（みやこ）は咲く花の薫ふ（香る）がごとく今盛りなり」万葉集に有るように古来より大変に栄えた所である。

和銅三年（七一〇）藤原京から奈良の地に開いた平城京へ都が遷され、以後七代七四年余りにわたり日本の首都であった。延暦三年（七八四）長岡へ遷都、平城京内は概ね荒廃したが、当時外京と呼ばれた東部山側の地には藤原一族の氏寺、氏神である興福寺、春日大社、更に総国分寺の東大寺が有り、これらの寺社を中心に繁栄を続けた。治承四年（一一八〇）の兵火で東大寺・興福寺は焼き討ちに有ったが源頼朝の援助で復興し、奈良は門前町として一層発展した。商業や手工業も発達し、中世には座（社寺等を本所とする商工業者・交通運輸業者・芸能人等の同業組合、社寺へ奉仕し、営業にあたって本所の保護を得た。）を組織した。永禄三年（一五六〇）には松永久秀が多聞城の構築に着手、奈良は初めて武家支配下に置かれた。豊臣秀吉は弟秀長を郡山城主として奈良には奉行を置いた。江戸時代も町政は奈良奉行によって扱われ、戦国時代に消失した大仏殿の復興が成ると「奈良参り」が流行、観光都市の性格を強めるようになる。明治以後は古文化と自然美を観光資源とする発展策を確立、明治二十年（一八八七）奈良県が置かれて県下の政治・経済の中心となった。さて、国道二四号線は車両の往来が激しく歩けたものでない、右折して水上池に出て法華寺、極楽寺前を通り奈良市役所前の奈良生駒線に出る。そして三条大路、四条大路と歩き木津横田線迄一気に歩く、表通りは観光客と修学旅行生で混雑極まり無し、郡山の西名阪自動車道迄歩く、時刻は午後四時三〇分。一休みである。

「大和郡山市」生駒山地の東に低く横たわる矢田丘陵、その東麓を南流する富雄川は、大和盆地の北部を潤して大和川に注ぐ。奈良には希な城下町郡山には古い町並が残り、金魚の養殖池が点在する。金魚は文亀二年（一五〇二）、明国（中国）から輸入されたと伝えられているが明らかでない。大和郡山へが柳沢吉里氏が享保九年（一七二四）の入封と共にもたらされたと云い、幕末には金魚養殖が藩士の内職となった。維新後は一般農家へも奨励され、気候が適した事、溜池から餌のミジンコを容易に

入手できた事によって生産は増え、現在金魚池面積八〇万平方米、年間出荷八千万尾を数えると云われる程迄に発展してきた。次いで「田原本町」に達する。奈良盆地のほぼ中央の低平地に有る。町域は古代条理の跡をとどめる、中心の田原本地区は中世には楽田寺の門前が開け、近世には教行寺の寺内町、次いで交代寄合の平野氏の陣屋町として「大和の大坂」などとも云われる程商業が盛んと成った。現在は近郊農業が盛んで、ベッドタウンとしての役割も大きい。「田原本駅」前で夕食を摂る、まだ一時間程は余裕が有る、夜道を橿原市に向けて歩く、街灯と自動車のライトを頼りに国道二四号線を更に南下する、耳成山手前の小さなお宮の境内を借りてテントを設営した。明日は午前六時出発の予定、橿原の夜空に煌めく星を眺めつつ、やがて眠込む。（次号に続く）

編集後記

私の周辺で由良の歴史に関する話題がにぎやかです。

・由良の歴史年表(歴史をさぐる会)
・身代わり信仰・丹後由良。
　如意寺（坂本与一郎氏）
・文豪三島由紀夫と丹後由良
　そしてポッポ屋修さん(平間武氏)

原稿を読みながら出来る限り早い時期に由良の皆さんに是非読んでもらいたいことばかりです。

三森明氏からもアニメ入りの投稿がありました。プロのアニメ作家として活躍されています。

由良出身で各地で活躍されている方々は多いと思いますが、先の由良地区運動会で三十数年振りに総合優勝を勝ち取られた宮本地区の皆さんの活躍も見逃すことが出来ません。

学校の取り組む地域とのふれあい、農作業体験等、夢のふくらむ様子が目に浮かびます。

岸田勇氏の表彰に乾杯!!

（飯澤）

R100　古紙配合率100%再生紙を使用しています。